

## フクシマを訪ねて ～福島第一原子力発電所周辺地域の視察～

記： 安達進

2017年11月20日、初めて福島第一原子力発電所事故後の周辺地域を視察する機会を得ました。東京からJR常磐線で福島県いわき市に入り、現地で活動する民間人の方(南相馬市在住)の案内で、富岡町→双葉町→大熊町→浪江町→南相馬市と国道6号線を車で北上するルートでの視察です。南相馬市から借りて頂いた放射線量計を2台持った視察です。なお、JR常磐線は富岡駅から浪江駅間の鉄道は不通で代行バス運行しています(震災で壊れた線路が放射線の影響もあって復旧作業が進んでいません)。

まず、いたるところで目につくのは、野ざらしで積み重ねられた大量のフレコンパック(除染などをした放射性汚染物が詰められた袋)の広大な一時保管場所です。集落隣接で放射性廃棄物最終処分場もオープンした直後でした。



放射性廃棄物最終処分場



JR 富岡駅付近



一時保管場所



一時保管場所



広大な中間保管場所

富岡町、双葉町から浪江町にかけては、一言で言うと、ゴーストタウンで、帰還困難区域が解除された、あるいは解除されつつと言っても、帰還困難区域内はもとより解除された区域でも、放棄(放置)された住民家屋、商店や会社の建物、車両、それらの周りは草ぼうぼう、という状況で、道路を歩きかうのは除染や工事の関係者や車両だけでした。



富岡町土壌マップ



帰還困難区域の住宅



ゴーストタウンの通り



帰還困難区域ゲート

双葉町、大熊町では、帰還困難区域と最近解除された区域が混在しています。帰還困難区域との境目にはバリケードが張られて入れないようになっていて、道路は警備員が張り付いています。解除され「住むことが許可された」地域でも、道路や家の周りなどごつとは除染されていますが、草地や水の吹き溜まりなど、まだまだ放射線量が高い所も多く、こんなんで住んでいいの? と率直に疑問を感じます。また、帰還「困難」区域ではなく、帰還「禁止」区域が正しいのではないのでしょうか。帰還困難区域が解除されたところが増えつつあると言ってもまだ帰らない、帰れない人もほとんどのことです。



南相馬市から借りた線量計で計測



福島第一原発遠景



帰還困難区域のゲート



国道 6 号線



浪江町役場付近

道路脇の草むらとか吹き溜まりとか、そういう所では線量の高いところばかりです。ちなみに公的に設置されている線量計は条件の良いところだけを平均的に測るように設置されているようで、たくさんある線量の高いホットスポットは対象外です。



道路に置いた線量計



線量モニタリングポスト

帰還困難区域につながる山中の道路をゲートで閉鎖している警備員の待機小屋は除染されない山からの放射線を防ぐ鉛で覆われ、また鉛板の壁で囲ってあります。



ゲートと待機小屋



通行証確認中

住民が仮に帰還しても、周りには放射線量の高いところがゴロゴロしている環境であるわけですね。そんな所に住民、特に若い人や子供を帰還させて、帰還してはたして本当に大丈夫なのでしょうか？。

南相馬市の南側地域では、他の町に比べて放射線量が低くなってきたようで、住民、特に若いお母さんとか子供たちの姿をよく見かけました。復旧・復興という観点からは一見、好ましいようにも見えますが、それでもとても大丈夫と思えない点が多々あるように思いました。



田んぼ法面の注意書き



草むらでの線量計



採取サンプルの計測

震災からの復興も原発事故からの放射能汚染があるがために復興作業が出来ない(放置せざるを得ない)、遅々として進まない、住民帰還も放射能が危なくて出来ない、となっているわけです。

除染や帰還困難区域の管理など、原発事故さえ無かったら必要の無かったはずの甚大な労力・エネルギー・お金が投入されていることを考えると、大局的に考えて、なんと後ろ向きなことなんだろうと悲しくも腹立たしくもなります。

私の住むこの素敵な松江や山陰を、フクシマのような住めない地域にしてしまう可能性のある島根原発をなんとかしなくてはと、短時間での駆け足視察でしたが、改めて思いました。

#### 《除染について》

除染は、基本的に、道路、家・学校などの建物、学校グラウンド、農地のみで、山、川、池、ダムは対象外、農地(田んぼや畑)・池・川などの法面も対象外、つまり住民の飲料水を採る水源地も対象外でした。また、国のお金での除染は1度だけだそうです。

ということは、住民の生活範囲の非常に限られた場所しか除染しないし、1度除染しても、山から風が吹いてきて放射能汚染したチリなどが舞い降り、また除染が不十分な土地を通った車のタイヤが持って来る泥などで汚染が戻るらしいですね。実際にスーパーの駐車場などで放射線計測してそのことを見せて貰いました。

また、農地も草刈りと表面から5センチ程度を剥ぎ取って、他の汚染されていない土を被せる程度だそうです。作物植えて、仮に20センチくらいの大根が育ったらどうなるのでしょうか？。放射能物質が根から吸収されて作物に集積する可能性も高いのではないのでしょうか？。収穫物はサンプリングながら放射線量測定をして出荷していることは知っていますが、その安全性基準は十分に厳しいものではないでしょうか？。また、毎日、これらの土地を耕し、農作物を作って出荷している農家の人への土地からの被ばくは大丈夫なのではないでしょうか？。

ついでに言うと、剥ぎ取った土の代わりに被せる土はどこから持ってくるかというと、付近の山を丸ごと崩し、汚染されていない土を運び出していました。それって新たな自然環境破壊の何物でもありません。

さらに、前記の除染した物質はフレコンパックで運び出して管理・処分する訳ですが、焼却が簡単でない、建物のアルミサッシや電気製品、自動車などは全くの除染(つまり廃棄)対象外で、至るところに放置されたままであり、これらに放射線量が高いものが多々あるとのことでした。

以上